

言葉

大口高校 三年 有満 万結香

「みんなが言っているから。」

「少しくらい。」

「私だけじゃない。」

「あの子ってさ、・・・・・・・・。」

一言。たった一言。この一言を口にすれば止まらなくなる。言葉の暴力。その一言で誰かが傷つくかもしれない。この想像ができる人が今の時代に何人いるだろうか。その時だけの感情で発する言葉ほど怖いものはない。後悔したって発してしまった言葉は消えない。況してや、言われた本人の心の中では一生消えない傷になる。私がこう考えるのは、私自身がその一言を発してしまったことがあるからだ。「陰口なんて言ったらだめだ。」こう思っている、一言口にしていればもう止まらなくなる。だんだんみんなと分かり合えていることが嬉しくなる。でも数日たって気づく。周りの意見に合わせていないと怖い自分がいることに。自分は特に気にしていなかったことを相手が言った時、「えっそうだったけ？そんな事私全然思わなかった。」この一言が言えなくなっている。否定することで陰口を言われたくないから。仲間外れにされるのが怖いから。そうしていると、どんどん自分がわからなくなる。「あの子はああ言っていた。でもこの子はこう言っていたし。」こう考え出すと自分が仲良くしたいと思う人さえわからなくなる。自分のがっかりする。なぜその時だけの感情で話しをしてしまったのか。私はこんな自分ではいたくない。だからもし口にしようになった時は、一回踏み止どまって、よく考えて、そして行動する人になりたい。「一回踏み止どまって、よく考えて、そして行動する。」これは私が心を打たれるドラマで言っていた言葉だ。「自分の発する言葉、発した言葉に責任を持って。自分のなにげない一言で人の人生を救うことができるかもしれない。だけどその一方で、自分の言葉一つで人の命を簡単に奪えることを忘れるな。」この言葉は私の心に一番残っている言葉だ。このドラマの言葉は、まるで私の心の中を見抜いているように私の心にグサグサと刺さる。初めは心が苦しかった。でも苦

しいからこそしっかりと見なければならぬと思った。自分を変えるために。

私は「誹謗中傷」という言葉の暴力が少しずつでも減っていくことを願う。誹謗中傷など言っても良いことなんてない。残るのは「罪悪感」だけだ。だから自分の行動をふり返り自分の行動や発言に責任を持つ人が増えてほしい。私はスマートフォンのアプリで誹謗中傷のコメントが書かれているのを見かける。その何十秒しか、その画面でしかその人を見たことがないのに、次から次へと誹謗中傷が書かれている。どんな動画でもひどいコメントが書かれているとその書かれている部分が浮いて見える。他に見るべきところがたくさんあるはずなのに。誰かがその一言を書き込んでしまえばまた誰かも書き込む。

ある海外の二台の車の話を知っているだろうか。その話とは、「ある人が二台の新車のうち一台に落書きをしました。もう一台は新車のまま駐車をし、何時間後に車を取りに戻ってきました。二台の車の様子を見てみると、新車のまま駐車した車は傷一つつけられていなかったけれど、落書きした方の車は、窓ガラスが割られ、たくさんの落書きをされボロボロでした。」というものである。つまり、たった一つ傷をつけてしまえば、次から次へと傷が増えていってしまうということだ。

これは言葉も同じなのではないだろうか。誰かの一言で誰かもまた言ってしまう。誰かの一言で誰かが何の真実も知らない人に傷つけられる。私はこんな事があってはならないと思うし、こんな事が実際に起こっている今の時代を少しずつ変えていかなければならないと思う。だから私は人から聞いた噂話しや誹謗中傷に流されて一緒になって言う人ではなく、自分が実際に見たこと聞いたこと、感じたことを信じ、自分に自信を持って生きる人になりたい。また、何かに腹が立った時、今のこの感情だけで話していいのか、一回踏み止どまり、よく考えて行動したい。そして、インターネットをよく利用する今の時代だからこそ、今まで以上に自分の言葉に責任を持ち言葉の重さを感じながら生活したい。

いつか誹謗中傷がなくなり、みんながお互いのことを思いやり、お互いの素晴らしい部分を褒め合えるような、車の落書きも

みんなで落とせるような時代がくることを願っている。